

三浦市立初声中学校

研究テーマ：『主体的に学ぶ子 ～主体的な学びへつながる授業づくりを目指して～』

1、実践の目的

本校の生徒は、一小一中で周りの人間関係がほとんど変わらない環境の中、9年間を過ごす。とても落ち着いた雰囲気のある地域ではあるが、それが故の課題も見られる。

学校ランドデザインで確認されている生徒の実態は、「優しく思いやりのある生徒」、「素直で真面目な生徒」という良い面が真っ先に挙げられる一方で、「表現力が乏しい」や「創造的な活動や自己決定が苦手」という課題が挙げられる。

具体的には、「与えられた課題に対して、真面目に一生懸命に取り組む姿が授業や日常生活全般で見られる」が、「自分で考え決定し行動することに苦手意識をもっている」、「他の人の意見を聞いたり受け入れたりする姿勢」があるものの、「安易に同意同調してしまう傾向」にある。そうした点が、特に学習（学力）の面において顕著な課題として見られるため、生徒と教員の双方が課題意識をもって取り組めるよう『主体的に学ぶ子 ～主体的な学びへつながる授業づくりを目指して～』を研究テーマに設定した。

2、実践の内容

学校ランドデザインや教科のランドデザインで確認した共通課題や、校内研の研究テーマに沿って、日々の授業研究や研究授業を行うと同時に、今年度は新たな取

り組みとして以下のような実践を取り入れた。

（1）ICT 機器の活用のための教員研修

タブレット端末や電子黒板が常備され、より効果的な学習活動への活用が求められる中、使用すること自体が目的となってしまうたり、使用方法が分からないために活用できなかつたりすることがないように、教員研修を行いながら授業研究を進めることとした。

（2）個々の重点目標の設定

『主体的に学ぶ子 ～主体的な学びへつながる授業づくりを目指して～』を大目標とした上で、教員一人ひとりが次の3つの中から1つ以上を選び個々の重点目標を設定した。（ ）には教員ごとに言葉を入れる

- ㊶ タブレット端末を使って（ ）の力を伸ばすための主体的な学習を促す工夫
- ㊷ 電子黒板を使って（ ）の力を伸ばすための主体的な学習を促す工夫
- ㊸ 主体的に考え、判断し、自分自身のことばを使って表現する力を伸ばすための工夫

（3）模擬授業による情報交換と研修

個人テーマや ICT 機器の扱いの習熟度等を加味してグループ分けをし、実際に授業

で実践した工夫やこれから実践しようとしているものを「模擬授業」の形でシェアし、情報交換した。

(4) 公開授業期間の設定

本校では、数学・英語・理科でティームティーチング（TT）を実施するとともに、専門教科以外の教員が学習支援の目的で授業をサポートする時間が多く組まれている。そのため他教科の視点から授業を見る機会も多い。

さらに、後期には3週間の公開授業期間を設け、ふだん TT に入っていない教員も含めて一人3回以上は他教科の授業を見合い、参観後に授業者と協議や意見交換の時間をもつこととした。

3、実践の成果

(1) ICT 機器を使う意義と使わない意義

ICT 機器の活用については全体研修と模擬授業の両方で取り上げた。特に機器の扱いに自信のない教員については、授業で実践する前に模擬授業として行い、活動に対して ICT 機器の使用が適切かどうか、また生徒への分かりやすい指示の出し方などを研修することができた。

生徒の視点や学習目標と照らし合わせて、ICT 機器をどう活用することが妥当かを考えるとともに、そもそも ICT 機器の活用自体が適切かどうかの検討も行った。ICT 機器が導入された当初に懸念されていた「使用自体が目的とならない」ように有効な活用技術を学ぶとともに、あえて使わない選択をする意義を確認することができた。

(2) 生徒が一人でじっくり取り組む時間

従来の黒板、電子黒板、タブレット端末、ノート、プリント、小型ホワイトボード、付箋などさまざまな教具がある中、生徒の理解や主体的な学びを支えるのにもっとも有効なものを選択しようという意識が高まった。それによって、一斉授業の中でも「みんなで」ではなく、生徒が「一人でじっくり考え、取り組む時間」と「自分の考えを相手に伝わりやすくまとめたり発表したりするための準備をする時間」を意識した。

(3) 職員室における学び合いの雰囲気

模擬授業や公開授業を設けたことにより、教科の枠を超えて情報交換・意見交換をしたり、授業アイデアを出し合ったりする機会が増えた。それによって日常的に職員室内で授業についてアドバイスを求め合う場面、感想を伝え合う場面、他の教員のおもしろい取り組みを紹介する場面などが見られた。

4、今後の展開

本校は令和5（2023）年度から2年間、道徳教育の研究重点校に指定されている。しかし、校内研のテーマを道徳教育だけに絞るのではなく、主題は『主体的に学ぶ子（仮）』としたままで、3つの研究部（道徳研究部・学習研究部・生徒指導研究部）に分かれて研修研究を促進させる。今年度取り組んだ授業研究については、学習研究部を中心に引き続き取り組み、学校全体で授業力向上をめざす。